



未来を夢見て Season 2

2021/4/6 No. 67

桜満開 令和3年度始業式を迎えるにあたって

～支持的風土のある学級づくりを目指して 子供たちとの出会い「黄金の3日間」を大切に～

小野小学校自慢の桜も満開になり、春爛漫の季節を迎えました。校庭では、新1年生の親子の皆様に関連昇降口に貼り出された名簿でクラスを確認するために来校していただいています。また、もみじ学級さんの前の鉢にはチューリップの花が咲き始めました。

昨年の今頃（臨時休校）を思うと、それでも今年は予定通り入学式が迎えられそうなので、そういう意味では感謝の気持ちで一杯です。さて、令和3年度始業式では、以下のような内容で話をするつもりです。

（前略）さて、3学期の修了式の時は、小野小学校の卒業生の及川瑞基選手のことを紹介しました。瑞基さんは自分で決めたことは、最後まで諦めずに頑張る人でしたね。そして、今年の全日本選手権で見事優勝できました。今は次のパリオリンピックを目指してまた努力を続けています。さて、今日はもう一人、同じ宮城県出身のアスリートを紹介します。

この方は宮城県気仙沼出身の谷真海さんです。写真で見て分かるように、右足の膝から下が「義足」になっています。谷さんが病気になって足を切断しなければならなかったのは大学生の時、当時は大変悩み苦しんだそうですが、お母さんの「神様は乗り越えられない試練は与えない」という言葉に励まされ、強く生きていくことを決め、障害者の方々のオリンピックである、パラリンピックに3度も出場しています。辛いことがあっても、それを乗り越えられないことはない、という強い気持ち、私たちも見習いたいですね。さて最後に校長先生がお願いしたいことはいつも2つです。 **1つは命を大切にする。2つめは挨拶です。**

3月の修了式の時は返事についてお話しましたね。今年もこの返事をまず頑張ってみましょう。（後略）



新しい子供たちとの出会いからの3日間、新学期は「黄金の3日間」と呼ばれています。それは新しい年度になって、みんな新しい気持ちで学校生活をスタートとすることができるからです。小野小学校の子供たちは基本的な生活習慣や学習習慣は身に付いているので、黄金の3日間での課題は何と言っても「学級づくり」。子供と子供、子供と教師の関係づくりにあるでしょう。今年度も二人の新任の先生方をお迎えしました。二人を見ているとみなさんも初任の頃の自分を見ているようで、大いに共感できるものと思います。経験豊富な先生方の多い本校ですが、私たち自身も初心に戻って、新鮮な目で子供を見つめ、真っ白いキャンバスにそっと筆を入れるつもりで、心穏やかに子供たちとの新たな出会いを迎えたいものです。

（文責：手代木）

